カランポーのオオカミ王

グリル作　千葉茂樹訳　岩波書店

大都会で暮らしていたシートンは、アメリカのカランポー地方でおそれられていた、オオカミのリーダー「ロボ」をつかまえるため、ハンターとしてやってきた。ありとあらゆる罠でいどむが、ロボは賢く、けっしてだまされなかった。あるとき、ロボのつれあい、ブランカをつかまえ、とうとうロボも罠にかかった。

目的をなしとげたが、ロボの死は、博物学者であり、ハンターでもあったシートンの人生の転機となる。環境保護運動の先がけとなるシートンのその後も描いた物語。